

きらら山口

国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所

所長 川崎 博巳



思いもよらない山口勤務となって、ようやく9カ月。おかげさまで名誉ある「隣からみた北海道」に執筆する機会を頂きましたので、こちらの状況を紹介させていただきます。(隣というには随分遠すぎますが！)

■ 山口県

表題の「きらら山口」は、2001年夏に開催された「21世紀未来博覧会 山口きらら博」以来、あまり目立たない山口県をアピールするのによく使われています。山口県はその存在感を示すために、5年毎に全国的なイベントを開催することを目標にしています。今年11月に国民文化祭が県内全域で開催され、5年後は国民体育大会の開催が決まっています。

山口県の人口は148万人ですが、その7割が山陽側の都市部に集中しており、残り3割が山陰側と中山間地域です。県庁所在地の山口市は周辺4町と合併しましたがそれでも人口19万人で港も新幹線もなく、また大きな産業もないため求心力がありません。一番の都市は下関市で29万人ですが北九州、福岡を向いています。山陽側の臨海部には石油、化学、鉄鋼、機械等の大企業の工場群が集積しており、事務所のある防府(人口12万人)にもマツダの主力工場、ブリヂストン、協和発酵、日本たばこ等の工場があり、最近までカネボウの工場もありました。広島県境に和木町という人口6千人の合併しない小さな町がありますが、化学系の企業が2社立地して税収が多いため、不交付金、幼稚園、小中学校の給食無料、近々自己負担でJR新駅を設置する計画です。山陽側は高速道路IC30分圏、新幹線駅30分圏がほぼ満

たされて、特定重要港湾2港、重要港湾4港、空港1港を備えており豊かさを実感させます。

一方、山陰側はそのいずれもなく産業は水産業と観光です。就業者1人当たりの生産額も有効求人倍率も山陽側の約2/3。人口減少も高齢化も進んでおり、陰陽の格差が歴然としています。

観光客は毎年2,300万人程度で推移していますが、高速道路、新幹線を利用しての県外からの観光客が半分を占めています。ここでも山陰側は高速道路、新幹線がない上に特急列車もなくなったため苦戦を強いられています。北海道と似た状況の山陰について応援したくなります。

市町村合併は56市町村が13市9町の22市町になりました。中規模都市が点在して8つの広域生活圏からなる分散型地域構造ですが、北海道との違いは札幌のような中枢都市がないことです。山陰と山陽の格差だけでなく、県西部は九州と繋がり、県東部は広島との繋がりが強いため、山口県はまとまりがないと言われることがあります。5年に一度の全国イベントを目指しているのも、地域間の連帯感を高めるねらいもあるのかもしれませんが。

山口県の自慢は壇ノ浦から始まって大内氏、毛利氏、長州藩と続く歴史、文化と、8人の総理を輩出したことです。防府には日本で最初に創建された天神様「防府天満宮」があります。菅原道真が太宰府に流される途中で滞在しており、太宰府天満宮、北野天満宮と共に日本三天神と称されています。毎年11月に「裸坊祭」という今年で1,003回目のお祭りがあり、今年も事務所の有志がサラシを巻いて参加しました。1000年の歴史を持つお祭りなんて北海道人にとっては驚きです。それと防府の隠れた自慢

は、夏目雅子のお墓があることです。
伊集院静は防府の出身だそうです。

■ 山口河川国道事務所

当事務所は山口県全域の直轄河川、道路を担当しています。県一事務所と言うそうです。県内には他に営繕事務所、宇部港湾事務所、下関港湾事務所がありますが、下関港湾事務所は九州地整の管轄になっています。

河川は県内唯一の一級河川佐波川さばがわを持っていて上流にはダムもありますが、昭和47年以降水害のない川で、予算も事務所全体の6%です。ただし河川の会議やイベントは道路よりも多い

くらいで結構振り回されます。県内には錦帯橋の架かる錦川が有名ですが県管理になっています。意外と暴れ川でH17台風14号で激甚災害を受け、国道2号も一緒に流されてしまいました。

道路は国道2号、9号等5路線、管理延長460kmで、仙台の事務所を抜いて全国1位になっています。中国地整全体の管理延長は1,600kmで北海道の約1/4です。道路整備の課題ははっきりしていて、山陽側の渋滞対策と山陰道の整備の2つです。

中国地方の高速ネットは東西に3本（中国縦貫、山陽道、山陰道）、南北に4本計画されています。この内、中国縦貫、山陽道、南北2本は全線供用しており、残っている南北2路線は新直轄で工事中です。山陰道は西日本高速(株)と直轄のバイパス事業で飛び飛びに整備されていますが、未だ供用率は25%です。一番遅れていると思っていた北海道より10年以上遅れている状態です。ですから島根県、鳥取県は道路特定財源堅持に関しては知事を先頭に活発に行動しています。実は一番遅れているのは山口県で、県内にはまだ山陰道の供用区間がありません。19年度末に国道バイパスの萩～長門間7kmがようやく供用開始になります。高速がないから企業も来ない、最近は医者も来なくなったそうです。今年萩市で高校卒業生600人のうち、地元に残ったのはわずか1割だったそうです。

山陽側の国道の交通量は3～4万台、しかも大型



防府市街



防府天満宮

車が多く、B/Cを出すのに悩むことはありません。2車線で残っている区間を多く抱えており、現在も8カ所でバイパス事業を展開していますが、まだまだやるべき箇所がたくさんあるという感じです。驚いたのは山陽道の中に直轄のバイパス事業で整備したところがあり、その区間は無料になっています。最初に整備した中国縦貫が山間部を通過するので効果が小さく（実際交通量はスカスカ）、国道の渋滞対策も兼ねて山陽道の整備を急いだようです。その結果として山陰道への投資が遅れてしまったということだと思います。

事務所の予算は280億、ちょうど中国地整全体の1割に当たります。13課8出張所体制で職員数は130人。事務35技術65の割合です。副所長が4人いて、管理職級30人、係長級80人、一般職員20人という構成です。中国も新規採用が今年も来年も一桁で、どんどん一般職員が減って係長級が膨らんできています。外注化が進んでいて、監督補助、積算補助の総数は技術職員2人に1人の割合です。仕事はご存じのとおり分業制です。設計は調査設計課、積算は工務課、監督は出張所または建設監督官。少ない人数でこなすには効率的ですが、責任の所在が曖昧なのでイライラします。それと一般職員は出張所係長になるまで現場に出ることがないので心配です。こちらで良いのは事務所内に用地課が2課あって事業課との連携がスムーズなので助かります。地権者説

明にもペアで行くことが多く、局ヒアリングも一緒です。

所長の権限が強く、判断、情報は所長に集中させようとするので、会議、打ち合わせが頻繁、何でも所長決済、出張から戻ると職員が列をなして待ち構えている状態で、今までで一番働いている気がします。

■ こちらで感じること

- 直轄国道といえども狭くて（特に歩道）線形の悪い所が多い。冬の恵みで北海道の道路はしっかり造れているのだと感じます。
- 高速道路で片側2車線+登坂車線区間がある。また、中国縦貫には規制速度60km区間がある。
- 道路管理は6月の梅雨から10月の台風までが心配。事前通行規制が一番厳しい所でも連続雨量150mm、大半は250mm。こっちは雨が粒がでかくてぬるい。
- 草刈りのコスト縮減のため郊外部では除草剤をまいている。地元山口大学との共同研究で無害が確認されたものを使用。
- 中央分離帯の芝を張りコンに置き換えてきている。凍上の心配がないとはいえ、緑をなくしてコンクリートで固めることへの抵抗感が少ない気がします。
- 怪しげな斜面が所々あるが、ほとんどがコンクリート吹き付けで処理されている。
- 積雪地で地下水ヒーティングをしているが、なん



松蔭神社

と登り勾配の片車線のみ。めったに凍結しないから大丈夫とのこと。

- 横断歩道橋（55カ所）よりも地下歩道（84カ所）の方が多い。何故かは不明。最近防犯カメラを付け始めている。
- 山陽側の市街地では立地している企業がスポンサー照明（街灯）を設置して地元還元している。
- 県との関係は比較的良好。道路整備に積極的で自専道の地域高規格道路を2路線も単独で整備している。県道のガードレールは全て夏みかん色に統一されている。
- 県の工事発注は約1,000億円。当事務所の約5倍。地元業者対応は県が中心。こちらもピーク時に比べて発注量が半分に落ち込んでいる。なお当事務所の発注工事でJV受注はゼロ。低入札も少しあるが、落札率は90~93%程度。

北海道はこちらでも抜群の知名度、好感度があります。北海道に対するイメージは「遠い、寒い、自然が豊か、食べ物がおいしい」といった一般的なものですが、遠いことが逆に北海道への憧れを強くしているようで、出張でも何でも北海道に行ったことがあるということが一つの自慢話になっています。新婚旅行は北海道だったという人も結構います。それでも北海道旅行をしたことがある人は3割程度で、まだまだ需要はありそうです。

居酒屋ではメニューに「北海道産じゃがいも、玉葱使用」などとありますし、スーパーでも北海道産の食料品が目玉として並びます。デパートの北海道物産市は大賑わいで、北海道では見かけない様なものまで名物として売り出されています。北海道産=安全・安心・美味というイメージが定着しているようです。

北海道にいと希望の大地などと言われてもなにか空々しくさえ思いましたが、こちらに来るとまんざらでも無いような感じがします。フグより毛ガニの方がずっと美味しいし、こちらで感動した景色は着任した頃の山桜群だけです。

きらら山口より、まだまだやれる北海道のご健闘を祈って結びとします。